

# 学び舎通信

## 1月号

町内小中学校の情報を  
毎月お届けします



大中

### 「スマホ・ケータイ安全教室」

「おおかわら9時ルール」夜9時を過ぎたらスマホ・ケータイ・ゲームをしない。町内の児童生徒が相談して決めた、誇るべきルールです。生徒や保護者アンケートによれば、遵守率は上がったきていますが、まだ十分とはいえないのが実態です。

そこで、全校生徒を対象に「スマホ・ケータイ安全教室」を実施しました。NTT Docomo MOスマホ・ケータイ安全教室インストラクターのかたから、特にSNSでのトラブルについてお話いただきました。

生徒たちは、スマホやインターネットは便利な道具ですが、その裏に多くの危険性が潜んでいることを知り、自分の使い方を振り返ることができたようです。

### ふるさと金ヶ瀬愛

「堤神楽講習会」

金ヶ瀬中学校では「ふるさと教育」として伝統芸能を大切に受け継ごうとする心を育むために、「堤神楽講習会」を実施しています。今年11月24日に行いました。

堤神楽は町指定無形民俗文化財に指定されていて、保存・伝承のための「堤神楽保存会」の皆さんを講師に招き、熱心に指導いただきました。最初は思い出すのに時間がかかり、思うように踊れませんでした。時間が経つにつれ、迫力ある舞を踊ることができました。感想には「伝統を受け継ぐ責任を強くもちました」「大人になってこの伝統を忘れないようにしたい」と、改めてふるさと金ヶ瀬の良さを実感していました。



金中

# 暗唱大好き

シリーズ⑨  
大中編

### 朝の活動

大河原中学校では、毎週金曜日の朝学習として暗唱に取り組んでいます。

各教室で生徒による進行で、学習が進みます。進め方は各学級で工夫され、一人一人が暗唱読本「寿限無」とらめっこしながら覚えるという日もあれば、これまで暗唱できたものをお互いに発表し合う日もあります。

時間を決めて行うのは週に1回ですが、生徒たちは自分で時間を見つけては「寿限無」を開いています。覚えれば覚えるほど楽しくなるのでしようね。



学習文化発表会

10月6日にえずこホールで行われた「学習文化発表会」では、2年生が「寿限無」から英語の暗唱を披露しました。「寿限無」は日本語だけでなく、英語の明文にも触れることができます。

この日は、英語のことわざを披露しました。広い舞台で、多くの観客の前で発表するのは大変ですが、物怖じせず堂々と発表しました。生徒の可能性の大きさを改めて感じることができました。



大小

### 伝統と心を引き継ぐ

「鼓笛引継式」

12月9日に、本校体育館で鼓笛引継式が行われました。6年生は「私たちが演奏すると、地域のかたが喜んでくださるのがうれしかったです。最高学年の姿勢も引き継ぎます。」と話し、1対1で教えてきた5年生に楽器やバレー帽などを渡しました。5年生は「これまでの6年生の教えに感謝し受け取りました。会場にはいつも応援の拍手があった6年生が卒業するさみしい、4・5年生が6年生の思いを引き継いでいく真剣さであふれていました。保護者や地域のかたのなかには、児童の凛とした姿に、そして涙を拭くかたもいらっしゃいました。

### ウィンターライブ 金ヶ瀬

12月8日、今年も言目ドラマの佐藤尊宜さん、ポーカーの佐藤千嘉さん夫婦と音楽ボランティアで本校で指導していただいている石塚希先生（ピアノ担当）による、ウィンターライブをポプラホールで行いました。

今回で6回目と金ヶ瀬小学校恒例の演奏会です。全校児童で「世界に一つだけの花」「手紙」「見上げてごらん夜の星を」「クリスマスソング」など、生の演奏で歌うことができました。児童からも「生のドラムの音がすごかった」「とても楽しかった」などと大変盛り上がったライブになりました。

その後、5年生と一緒に福祉についての学習も行いました。



金小



南小

### 5年生の箏体験

12月2日に「日本の音楽に親しもう」というテーマで、箏（生田流）の体験をしました。箏と尺八の歴史や楽器の仕組み、各部の名称の説明を聞いた後、講師「東風」さんの会合の皆さまによる演奏を鑑賞しました。

その後、班ごとに「きらきら星」の練習をし、演奏会を行いました。右手で弦をはいて音を出すのですが、曲の途中で左手で弦を押しなからはじく音もあり、同じ班の人に押すのを手伝ってもらいながら練習をする場面も見られました。2時間の体験でしたが、グループ見事に演奏することができました。和楽器の音色に癒された午後のひとときとなりました。



### 身近な自然再発見

…人間と共生する昆虫たち…



▲アゲハチョウの家紋

### 33 背中で見守る虫たち

以前はお正月になるとどこかの家でも和服に着替えて元朝参りに出かけたものです。お正月や結婚式などに着る羽織の背中には家紋が染められています。今回は、そんな紋付羽織の背中で人間を見守ってきた虫たちの話です。

家紋の模様を見ると、実にさまざまです。動物や植物から「ノト」を得たデザインのほかにも丸やひし形など幾何学模様なども使われています。もちろん昆虫たちも採用されています。

どんな昆虫たちが家紋に多く採用されているのか調べてみました。一番多かったのは蝶です。蝶が人間の身近で親しまれてきた証拠でしょう。

そのほかにハチやセミなども多く登場します。ハチなどは多産で活発な行動力を賞われて、家族のますますの繁栄を願う人たちに好んで採用されたようです。

蝶のなかで多いのはアゲハチョウです。理由としては、平家の家紋だったからという説があります。絶大な権力を一手に握っていた平清盛を代表とする平氏が家紋にアゲハチョウを採用したのです。

日本ではご先祖様をたどっていくと、最後は平氏か源氏の2つになるのが、日本を二分する名家の平氏が採用したのですから、その子孫たちが全国各地でアゲハの家紋を採用して広がっていったのも納得できますね。

その後、徳川将軍家もアゲハチョウの家紋にしたものこの傾向に一層拍車をかけたようです。ところで、お宅の家紋はどんな模様でしょうか？おせちを食べながら家紋の由来を考えるのもお正月にはぴったりの話題ではないでしょうか。

次回は、プレゼン特作戦でメスにアタックする虫の話です。

元金小校長、昆虫教室(町教育委員会主催)講師 鈴木健司さん